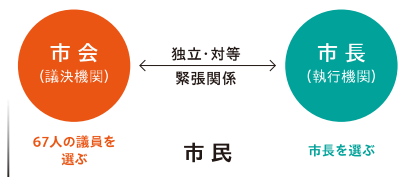




議会・議員の活動をサポート

地方自治の柱、二元代表制

市会議員と市長は、それぞれが市民の直接選挙によって選ばれ、共に市民の代表として「車の両輪」のように独立・対等の立場で適切な緊張関係を保ちながら、市政運営を行っています。



条例は市長だけでなく、議員自らが案を作り提出できるんだ。

またきち
(京都市会マスコットキャラクター)



これまでの議員等提案条例

- ▶ 自転車安全条例
- ▶ 清酒の普及の促進に関する条例
- ▶ 交通安全基本条例
- ▶ 京都市会基本条例
- ▶ 手話言語がつかなく心豊かな共生社会を目指す条例
- ▶ 交通安全基本条例の一部改正【委員会提案】
- ▶ ケアラーに対する支援の推進に関する条例
- など

市会の主な役割

- 条例や予算など、京都市としての意思決定を行います。
- 執行機関による市政運営を監視します。
- 市民の意思に基づく政策提案を行います。

市民の思いを背負い、開かれた場で徹底した議論を行っています。また、これらの活動を分かりやすく市民にお伝えしています。



京都市会
ホームページ

ホームページやYouTubeで、実際の議論の様子を見てみてね！



マクリース
(京都市会マスコットキャラクター)

行政 会派の議会活動をサポート

市会事務局 議事課 担当係長 (平成 27 年度採用)



会派(市会議員団)の担当として、市長から提案される議案の賛否をはじめ、様々な意思決定を行う議員会の運営、執行機関との連絡調整など、一つの会派の活動全般をサポートするとともに、市民の代表である議員が市政のあらゆる課題について議論を行う本会議や委員会等の議会運営に携わっています。二元代表制の下、執行機関と議会が相互に緊張感を持ちながら、市民福祉の向上に向けて議論を尽くし、市政運営の方向性が決定されていく過程に立ち会えることは、市会事務局ならではの経験であり、非常にやりがいを感じています。

行政 市会の代表 議長・副議長をサポート

市会事務局 総務課 (令和 4 年度採用)



京都市会を代表する議長及び副議長の秘書担当職員として、式典やイベント等の日程管理をはじめ、来客、問合せへの対応など、日々の公務が滞りなく進められるようサポートしています。これらの業務は、一つひとつ丁寧かつ迅速、そして確実に対応する必要があります。日々、責任感を持って取り組んでいます。上司や同僚に支えてもらいながら楽しく仕事を進められることや、普段は見ることのできない議会の意思決定がされるまでのプロセスに間近で携わることができる点は、市会事務局ならではの醍醐味であると感じています。

Work-Life Balance

ワーク・ライフ・バランスの推進

多様な職員が活躍できる職場づくり

時間外勤務の縮減

デジタル技術を活用した業務の効率化や、「週2日」以上の定時退庁日の設定など、「生産性の高い働き方」に取り組んでいます。

時間外勤務時間数(1人1月平均)

市長部局

8.4 時間

年次有給休暇

京都市では、年間20日の年次有給休暇が毎年付与されます。※新規採用職員の場合は採用月により異なる。4月1日採用の場合は20日。

1時間単位の有給休暇も取得でき、計画が立てやすい!!

平均取得日数

市長部局

15.6 日

テレワーク

持ち運び可能なモバイル端末や自宅PCを活用し、一定の条件のもと、自宅や外出先で仕事ができます。

利用者数

市長部局 (令和7年12月時点)

約 1,600 人

通勤時間を育児や介護、余暇の時間に!!
休憩時間の柔軟な取得もできます。

時差出勤制度

30分又は1時間、正規の勤務時間を繰り下げ、又は繰り上げることができます。

例：区役所勤務(正規の勤務時間 8:30~17:15)の場合

7:30~16:15 8:00~16:45
9:00~17:45 9:30~18:15

ライフスタイルに合わせて柔軟に選択!!
他の休暇制度等との併用もOK!

育児・介護等との両立支援

育児休業(子が3歳まで)、部分休業・育児部分休業(子が小学3年生まで)や介護休業(年間93日以内)など、仕事と家庭を両立しやすい職場づくりに取り組んでいます。

男性の育児休業取得率

市長部局

85.7 %

男性職員も育児休業が取得しやすい職場環境です!!



育休を自然に選べる職場環境

令和6年に約6か月間の育児休業を取得しました。職場には男性の育休取得を後押しする雰囲気があり、長期間の取得についても快く受け入れてもらえたことが、安心して決断できた理由の一つです。育休中は、初めての育児に夫婦で向き合い、日々試行錯誤しながら子どもの成長を間近で支える、かけがえのない時間を過ごしました。復職後は、時差出勤や在宅勤務を活用し、保育園の送迎や家事との両立を図っています。在宅勤務は通勤時間を家庭の時間に充てられる点が大きなメリットです。日頃から業務の前倒しや情報共有を心がけることで、仕事と育児の両立が実現できていると感じています。今後もONとOFFのメリハリを大切にしながら、職場から信頼される職員として成長していきたいです。



サークル活動が つなぐ、 職員同士の輪

京都市では、職員同士が部署や年代を超えて交流できるサークル活動が行われています。私自身もバレーボール部に参加し、さまざまな部署の職員と体を動かしています。普段の仕事では接点の少ない職員とも練習や試合を通じて話が弾み、サークルをきっかけに交友関係が広がっていくことに魅力を感じています。運動しながら仲間と交流することは、良い気分転換になるだけでなく、職場での声掛けや相談のしやすさにもつながっています。無理のない頻度で参加できるため、仕事とのバランスも取りやすく、気持ちに余裕を持って働けていると感じます。サークル活動を通じて築いた人間関係が、日々の働きやすさを支えていると実感しています。今後もこうした交流を大切にしながら、充実した職員生活を送ってまいります。